

点描ぐんま経済

日銀支店長 見聞録

41

見出しを見られて「何のことだろう」と思われた方が多いのではないか。先月、日銀本店の役員(審議委員)が当県を訪れた際に、主力産業である自動車関連企業を見学させていただいた時のことである。

物作りの極意

話を戻させていただけと、今は景気が全体としては回復している。このため、「人手不足」だ。この「人手不足」を解消するためには、「労働生産性」を向上させることが大事なのだが、教科書的には「労働生産性を向

上させるために、省力化投資、合理化投資を行う」ということになる。ただ、私は、労働生産性を向上させるた

ストライクポイント狙え

を、作業箇所からの近さによって「ストライクポイント」↓「ストライクゾーン」↓「内野ゾーン」と呼び分け、②部品を「内野ゾーン」に置くより、①部品を「内野ゾーン」に置く方がど

めには投資だけが手段なのだろうかという疑問を持つていた。これが先日、自動車関連企業の工場を見学させていただいた時に、「これなんだ」と合点がいった次第。どのようなことを言

①「部品の置く場所」



岡山和裕(おかやま・かずひろ) 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大学法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。

を少し変更した。必要なものを最短の距離に置くようにしたら、生産性が向上した。皆さんも、別な会社でお伺いしたの

に把握されていたのである。皆さんも言われてみれば「そうかもな」と思われるかもしれない。造物がラインで動くのは、以前までは製造物がラインで動くの

が、私にとっては「目に合う人が歩いてきたが、作業中に歩くのは非効率。このため、人が製造物と一緒に乗ることが出来るラインを作ることによって、人は歩く必要がなくなり、生産性と安全性が向上すること。

この話を聞いて、私は執務室のレイアウト